

# 過去から学び、未来に生かす。平和を祈り

戦争が終わり、74年の時が過ぎました。戦争体験者が減っている今、私たちに何ができるのでしょうか。戦争体験者の話を聞き、記憶を継ぐこと。戦争の記録を守る人の話を聞くこと。未来の平和を祈り続けること。何ができるか考えてください。今年も平和について考えます。

## 1 昔の記憶を辿る

### 戦争体験者の話から

#### 少年

年の目に映った、橙色の二枚翼の飛行機。家から見るその姿に憧れを抱いたという立澤孝和さんは「昭和13年、家の東約500mの所から追分(現32区や館林市開拓地区、関東学園敷地)まで飛行場が建設されました。少年飛行兵などが操縦訓練をし、毎日数十機の飛行機が見えました」と語り始めます。

空を制する国は世界を制すると言われていた時代。邑楽町周辺でも館林飛行場の建設や中島飛行機の工場造成など、日本全体で飛行機の生産や操縦者の養成が急務となっていました。立澤さんは「出征する人や軍需工場に勤める人が増え、農家も人手不足に。私は出征兵士宅に草取りなどの勤労奉仕に行きました」と話します。

#### 日本を空から守る そう誓ったから 少年飛行兵へ志願

食料や衣料品などが配給制となる中、国民学校高等科を卒業した立澤さん。「卒業生の半数は中島飛行機に就職。私は空から国を守るため、少年飛行兵に志願しました。しかし定員により入れず、中野郵便局に勤務しました」と記憶を振り返ります。

当時、少年飛行兵の募集は、市町村役場に掲示され、競争率は100倍とも言われたそうです。純真で感受性が強い10代の少年たちにとって、戦場での飛行機の活躍は華々しく、勇ましく感じたのかも知れません。立澤さんは「戦況は悪化していききましたが、私はどうしても空から国を守りたい。だから、一年で退職し熊谷陸軍飛行学校館林教育隊に軍属として勤務し始めました」と語気を強めます。

昭和19年、爆撃機による東京への空襲が始まりました。そんな中、少年飛行兵を再度受験した立澤さん。「やっと飛行兵への一歩を踏み出しました。しかし、試験結果は待てど暮らせど届きませんでした」と話します。このとき昭和20年3月、日本の戦況はますます悪化し、邑楽町周辺でも空襲が始まりました。館林飛行場でも操縦訓練ができなくなり撤退。立澤さんも満州へ出張となったそうです。それから一か月後、立澤さんの下へ合格通知が届きます。入校は昭和20年8月1日。すぐに日本へ帰国し7月31日に東京陸軍少年飛行兵学校に入校することになったそうです。

そして昭和20年8月。広島や長崎に原爆が投下され、まもなく終戦。最後の生徒となった立澤さんを含む少年飛行兵学校第20期生の生徒2千人。空から国を守るためという多くの想いは、果たされることはありませんでした。最後に立澤さんは「国のために一身を捧げるの

#### 少年飛行兵に志願 戦争体験者の 立澤さんに聞く

INTERVIEW

立澤 孝和さん (開拓・32区)

●1928年、邑楽町赤堀に生まれる。現在、91歳。子どもの頃に見た、少年飛行兵の操縦する飛行機。空から国を守ることが男子としての本懐と16歳で志す



## 町

内3カ所にある英霊塔や英霊碑。この場所を守る人たちがいます。町遺族会(英霊塔保存会)の皆さんです。会長の関谷栄一さんは「私の父も戦死した一人。私が生まれてすぐに出征し、顔を見ることもなく帰らぬ人となりました」と語り始めます。

遺族会では、終戦を迎えた8月に英霊塔の清掃活動や戦没者追悼式を行っています

#### 当時あった出来事を 改めて考えてほしい だからここを守る

関谷 会長は「私たちの役割は、英霊塔や追悼式など、戦争について考える場を守ることに。子どもたちにもこの機会を知ってもらうために、昨年からは追悼式を例年9月から、8月の開催にしました。次世代の子どもたちに、戦争の事実にも少しでも触れてほしい。これが私たちの願いです」と話します。

歴史的資料としての意味を持つ英霊塔。そこには、明治以降の戦争で戦死した町関係者の名前が刻まれています。関谷会長は「戦争は多くの命を奪いました。これは後世に伝えていかなければいけません。英霊塔はその役割を担っていると思います」と話します。

続けて関谷会長は「守り続けなければいつか無くなるかもしれません。実際、県内でも遺族会などが解散したという地域があります。会が無くなれば、英霊塔などの遺産を守ることも難しくなるかもしれません」と語ってくれました。



## 2

### 歴史的遺産を守る 町遺族会が取り組む

#### 邑楽の地にたたずむ、3つの遺産

邑楽町誌によると、明治以降に戦争で尊い命を失った町関係者は400人以上といわれています。その人たちを祀り、名前が刻まれる英霊塔。町内には3カ所に建立されています。

- ①英霊塔(なのはな園西) 建立 昭和29年4月
- ②英霊碑(松本公園東) 建立 昭和29年9月
- ③英霊塔(中野幼稚園西) 建立 昭和30年2月



#### 英霊塔を守り継ぐ 町遺族会の 関谷さんに聞く

INTERVIEW

関谷 栄一さん (石打・20区)

●邑楽町遺族会、英霊塔保存会の会長を務める。会では、戦没者追悼式や英霊塔の清掃活動を実施。英霊塔などの改修も会が資金を集め、実施している。



EVENT

### 戦没者追悼式

町では、戦没者追悼式を開催します。遺族や関係者をご参加ください。

- ▶期日 8月21日㊄
- ▶時間 午前10時～
- ▶会場 中央公民館「邑の森ホール」
- ▶問合せ 役場健康福祉課 ☎47-5024



### 第36回邑楽町平和展

- ▶日時 8月31日㊄・午前10時～午後2時
- ▶会場 中央公民館
- ▶内容 特別展示「本当にあった特攻。特攻隊員から学ぶ、平和」や戦時食無料配布、平和を祈るモザイクアート、防災グッズ製作体験コーナー、風船飛ばしなど
- ▶問合せ 邑楽町平和展実行委員会事務局 役場税務課(飯塚) ☎88-5511



邑楽町平和展と同日に朗読劇「月光の夏」を開催します  
詳細は、本紙20ページに掲載。

国民の8割以上が戦後生まれの今、体験者の記憶を語り継ぐことは、戦争への道を繰り返さないための、重しなのかもしれません。そして、今私たちに出来るもう一つのこと、未来の平和を祈り続けることです。

邑楽町には平和を考えるイベントがあります。町職員労働組合青年婦人部(31歳以下で構成)が企画から運営まで行う邑楽町平和展です。毎年、アイデアを出し合い、工夫を凝らし、平和を考える場所を創っています。

多くの人たちにとって平和が当たり前になってしまっている今、こうしたイベントに足を運び、平和について考えることが私たちにできることなのかもしれません。

# 平和な未来を祈る 3

若い世代が取り組む

平和を願い続けること

一本のレールの上にある過去、現在。未来。私たちの命も、戦争で失われた多くの命の上に成り立っています。だから決して忘れてはいけません。日本で戦争があったことは……。



の共催で中央公民館を会場に開催。共催事業の朗読劇「月光の夏」にちなみ、特攻隊員に関する特別展示や戦時中の食事を再現した戦時食の試食などを行います。また来場者と平和への想いを共有し、完成を目指す平和のモザイクアートや防災グッズ製作体験など参加者体験型の内容も考えています。

そして、今年もメインイベントの一つ、風船飛ばしを行い、平和への祈りを会場全体で捧げます。

私たちが生きる「今」そして「未来の平和」について一緒に考える時間になればと思います。皆さんもぜひご来場ください。

36 回を数える平和展。先輩からのバトンを受け継いできたイベントです。

平和展の目的は、戦争を経験していない世代に向けて戦争と平和について考えてもらうこと。一人一人が平和展を通して戦争の悲惨さや命の尊さ、平穏な日常を送れる幸せを再認識してもらうための機会になればと続けてきました。

今年の平和展は、町教育委員会と

平和だからこそ  
平和展も開催できる  
その意味を伝えたい



平和展実行委員長  
小谷 高平さん

写真は平和展のイベント一つ。色とりどりの風船を飛ばし、平和への祈りを会場全体で捧げます。(昨年の様子)